

## 昨夏経験したレプトスピラ症の2症例

◎重久 朋史<sup>1)</sup>、上野 伸広<sup>1)</sup>  
鹿児島県立大島病院<sup>1)</sup>

【はじめに】レプトスピラ症は、レプトスピラ属細菌 (*Leptospira* spp.) による人獣共通感染症で、不顕性あるいは感冒症状などの軽症型から、黄疸、腎障害、出血を伴う重症型まで多彩な症状を示し、眼球結膜の充血は本症に特徴的とされる。ヒトは、ネズミなどレプトスピラ保菌動物の尿との直接的な接触や尿に汚染された水や土壌を介して、経皮的あるいは経粘膜的に感染する。昨夏、我々はレプトスピラ症と診断された2症例を経験したので報告する。

【症例1】60代男性、来院時に、意識障害、低血圧、呼吸不全を認め、血液検査にて、高度腎障害、CRP高値、尿検査にて乏尿、蛋白尿、CTでは腎周囲脂肪組織濃度上昇を認め、敗血症性ショック、急性腎不全、急性呼吸不全のため入院となった。身体所見では、眼球結膜は黄染し充血あり、四肢の皮下出血を認めた。国立感染症研究所へ依頼した行政検査の結果、第3病日の血清レプトスピラPCRにて、陽性の報告があり、第18病日にレプトスピラ症の診断となった。患者は、台風による土砂災害の際に泥水を渡っており、汚染水を介して感染したと考えられた。

【症例2】60代男性、発熱、関節痛を認め、救急外来を受診。血液検査にて、高度腎障害、肝障害、CRP高値、尿検査にて、乏尿、蛋白尿、CTでは腎周囲脂肪組織濃度上昇を認め、急性腎盂腎炎と診断され入院となった。入院後の身体所見では眼球結膜は黄染し充血を認めた。国立感染症研究所へ依頼した行政検査の結果、急性期と回復期のペア血清にてレプトスピラ抗体400倍以上の上昇を認め、第44病日にレプトスピラ症の診断となった。患者は、農業を営んでおり、水洗い場にネズミの死骸がよくあったことから、水洗い場の汚染水を介して感染したと考えられた。

【考察】本症例は、黄疸や腎障害、結膜充血など特徴的な所見を認めたが、いずれも疾患特異的なものではなく、臨床所見とともに、患者の職業や生活状況など疫学的背景が診断の手がかりとなる。本症は熱帯、亜熱帯地域で流行がみられ、国内では四類感染症として年間30~40例程度が報告されている。今後進行する温暖化に伴う気温上昇や大雨、洪水などの災害により、本症の増加が懸念される。  
連絡先 0997-52-3611 (内線: 2059)